

製品安全データシート

作成 2009年 4月 1日
改訂 2013年 6月 1日

1. 化学物質等および会社情報

製品名 : コンパウンド SEC-N
 会社名 : 富士技研工業株式会社
 住 所 : 埼玉県戸田市本町4-2-16
 担当部門 : 品質管理部
 電話番号 : 048-434-6401 F A X 番号 048-434-6404
 緊急連絡先 : 富士技研工業株式会社 戸田工場 電話 048-299-5781

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外	自然発火性液体	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外	自然発火性固体	区分外
エアゾール	分類対象外	自己発熱性化学品	区分外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外	水反応可燃性化学品	分類できない
高压ガス	分類対象外	酸化性液体	分類対象外
引火性液体	分類対象外	酸化性固体	分類できない
可燃性固体	区分外	有機過酸化物	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外	金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分4	生殖細胞変異原性	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない	発がん性	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外	生殖毒性	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	区分2（気道刺激性、神経系）
急性毒性（吸入：粉じん）	区分4		
急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外		
皮膚腐食性／刺激性	区分2	特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	区分1（神経系）
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	区分1		
呼吸器感受性	分類できない		
皮膚感受性	区分1	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）	区分外	水生環境有害性（慢性）	区分外
-------------	-----	-------------	-----

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

- ・ 飲み込むと有害
- ・ 吸入すると有害
- ・ 皮膚刺激
- ・ 重篤な眼の損傷
- ・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・ 臓器の障害のおそれ
- ・ 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害

注意書き :

【安全対策】

- ・ 取扱い後、手をよく洗うこと。この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

【応急措置】

- ・ 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・ 皮膚に付いた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

【保管】

- ・ 施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成および成分情報

単一製品,混合物の区別	: 混合物	
化学名 (又は一般名)	: ソーダ 灰	無水 ^レ リン酸ソーダ ^ク
成分及び含量	: 70%	24%
化学特性 (化学式又は構造式)	: Na_2CO_3	$\text{Na}_4\text{O}_7\text{P}_2$
官報告示整理番号 (化審法)	: (1) -164	(1) -497
C A S No.	: 497-19-8	7722-88-5

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : 多量の水及び石鹼で洗い流す。症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。

眼に入った場合 : 多量の水で 15 分間以上洗い流した後、医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ 1~2 杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

予想される急性症状及び遅発性症状 :

くしゃみ、鼻水、眼・皮膚の刺激、発赤、痛み、灼熱感、咳、吐き気、嘔吐、下痢。

応急処置をする者の保護 : 救護者は防毒マスク、ゴーグル、ゴム手袋等の適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤 : 不燃性なので、周辺火災に対応した消火剤を用いる。(粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤)

使ってはならない消火剤 : 棒状の水。

特有の危険有害性 : 火災により、刺激性ガスまたは有毒ガスが生成されることがあるので、必ず保護具を着用し、消火作業の際には煙の吸入を避ける。

特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。消火のため放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な処置を行う。

消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具 (手袋、眼鏡、マスク等) を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業時には保護眼鏡、保護手袋等の保護具を必ず着用する。風下の人を退避させる。漏出した場所周辺にロープを張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項 : 公共用水域に流さないよう注意する。

- 除去方法 : 少量の場合は大量の水で洗い流すか拭き取る。
多量の場合は固体のままできるだけ回収する。大部分を回収した後、河川、用水路に流さないように水で洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 直ちにロープ等を張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い :

技術的対策

- ・ 取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
- ・ 接触、吸入を防ぐため適切な保護具（保護衣、安全ゴーグル、防毒マスク、ゴム手袋、ゴム長靴）を着用する。

局所排気・全体換気

- ・ 作業場は必要に応じて換気を行う。

注意事項

- ・ 皮膚、眼への接触を避ける。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

安全取扱い注意事項

- ・ 容器はその都度密栓する。
- ・ 容器を転倒させ、衝撃を加え、又は引きずる等の粗暴な取り扱いをしない。

保 管 :

適切な保管条件

- ・ 密封して換気の良い場所に保管。直射日光を避ける。
- ・ 酸化剤から離して保管する。

安全な容器包装材料

- ・ 製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度 :	ソーダ灰	無水ピロリン酸ソーダ
	設定されていない	設定されていない
許容濃度 :		
ACGIH	第3種粉塵 2mg/m ³ (吸入性粉塵)	設定されていない
	8 mg/m ³ (総粉塵)	
日本産業衛生学会	10mg/m ³ (総粉塵)	TLV-TWA 5mg/m ³ (無水物)

設備対策 : 局所排気を設置する。取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

保護具 : 保護衣、安全ゴーグル、防毒マスク、ゴム手袋、ゴム長靴

9. 物理的および化学的性質

外観等 : 白色粉末
pH : 11.0 (1%水溶液)
沸点 : データなし
比重 : データなし
臭気 : なし
蒸気圧 : データなし

10. 安定性および反応性

安定性 : 通常条件で安定である。
反応性 : 酸と発熱反応し、CO₂を放出する。
避けるべき条件 : 高温、高湿度、混触危険物質との接触。
混触危険物質 : 酸化性物質、酸性物質

11. 有害性情報

急性毒性 :

ソーダ灰	無水ピロリン酸ソーダ
LD ₅₀ (経口 ラット) 4,090mg/kg	LD ₅₀ (経口 ラット) 3,000mg/kg、1,000 mg/kg
(経皮 ラット) 2,300mg/m ³ /2h	LD ₅₀ (経皮 ウサギ) >300mg/kg

皮膚腐食性/刺激性 :

ソーダ灰
皮膚刺激性 ウサギ 500mg/24h 軽度 (IUCLID (2000))

無水ピロリン酸ソーダ
ヒトで、中等度から軽度の皮膚刺激が見られ、ウサギで強度の刺激性が報告されている。(ACGIH (2001))

目に対する重篤な損傷性/刺激性 :

ソーダ灰
眼刺激性 ウサギ 100mg/24h 中等度 (IUCLID (2000))

無水ピロリン酸ソーダ
ヒトで、中等度から軽度の眼刺激が認められ、ウサギで強度の眼刺激性が報告されている。(HSDB (2005)、ACGIH (2001))

呼吸器感作性又は皮膚感作性 :

データなし

生殖細胞変異原性 :

データなし

発がん性 :

データなし

特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）：

ソーダ灰

気道刺激性（IUCLID（2000））

無水ヒ酸リン酸ソーダ

ヒトで、咳及び鼻と咽頭の刺激が見られる。（ICSC（J）（1997）、HSFS（2003））

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）：

ソーダ灰

データなし

無水ヒ酸リン酸ソーダ

ヒトで、神経系への影響があり、ばく露基準が定められている。（IACGIH（2001））

吸引性呼吸器有害性：

データなし

1 2．環境影響情報

生態毒性

ソーダ灰

魚毒性 : (カタヤシ) LC₅₀=740ppm (96Hr) (IUCLID (2000))

(ブルギル) LC₅₀=300ppm (96Hr) (IUCLID (2000))

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

その他 : データなし

1 3．廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）、消防法を遵守し、適正な処理をするように依頼する。

少量の場合は、大量の水に溶解した後、薄い酸で徐々に中和して排水溝に流す。

中和時には濃い酸で中和すると発熱が大きく、また、CO₂ ガスの発生が激しくなり、液が容器から噴出することがあるので、必ず薄い溶液で中和すること。

容器 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に廃棄物処理法、及び関係法規・法令を遵守して、適正な処理をするように依頼する。

1 4．輸送上の注意

国際規制

海上規制情報：非危険物

